

「正しい人ヨセフ」

マタイ 1章18~25節

イエス・キリストの誕生は次のようであった。  
母マリアはヨセフと婚約していたが  
二人がまだ一緒にならないうちに  
聖霊によって身ごもっていることが分かった。  
夫のヨセフは、正しい人で  
マリアをさらし者にしたくなかったので  
ひそかに、離縁しようと思った。

彼が、このことを思い巡らしていたところ  
見よ、主の使いが夢に現れて言った。

「ダビデの子ヨセフよ

恐れずにマリアをあなたの妻として  
迎えなさい。

その胎に宿っている子は聖霊によるのです。  
マリアは男の子を産みます。

その名をイエスとつけなさい。

この方がご自分の民を

その罪からお救いになるのです。」

このすべての出来事は  
主が預言者を通して語られたことが  
成就するためであった。

「見よ、処女が身ごもっている。

そして男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

それは、訳すと

「神が、私たちとともにおられる」  
という意味である。

ヨセフは眠りから覚めると

主の使いが命じたとおりにし

自分の妻を迎え入れたが

子を産むまでは彼女を知ることにはなかった。

そして、その子の名をイエスとつけた。

## 本日のポイント

- I. ヨセフは、正しい人であった
- II. ヨセフは、マリヤの妊娠を表ざたにしなかった
- III. ヨセフは、マリヤを密かに離縁しようとした
- IV. ヨセフは、夢で導かれた
- V. ヨセフは、信仰の人であった

婚約～結婚へ(ユダヤの慣習)

- ① 結婚の申し込みは、ヨセフの家族から
- ② 承諾は、マリヤの父あるいは兄弟らを通して得られる
- ③ 婚約は、双方の誓約とマリヤに贈り物をする事によって確認する
- ④ 結婚前に、一年間の期間を置く
- ⑤ その間、マリヤは、自分の家族あるいは友人とともに住む
- ⑥ ヨセフは、代理人を仲介として、連絡をとる
- ⑦ 二人が会う場合、付添人の面前でのみ互いに会う
- ⑧ しかし、その一年間  
マリヤは、事実上、ヨセフの妻と考えられた

- ① 結婚の申し込みは、ヨセフの家族から
- ② 承諾は、マリヤの父あるいは兄弟らを通して得られる
- ③ 婚約は、双方の誓約とマリヤに贈り物をする事によって確認する
- ④ 結婚前に、一年間の期間を置く
- ⑤ その間、マリヤは、自分の家族あるいは友人とともに住む
- ⑥ ヨセフは、代理人を仲介として、連絡をとる
- ⑦ 二人が会う場合、付添人の面前でのみ互いに会う
- ⑧ しかし、その一年間  
マリヤは、事実上、ヨセフの妻と考えられた

I. ヨセフは、正しい人であった

母マリアは、ヨセフと婚約していたが

二人がまだ一緒にならないうちに

聖霊によって身ごもっていることが分かった。

夫のヨセフは、正しい人で

マリアをさらし者にしたくなかったので

ひそかに、離縁しようと思った。

ユダヤの王ヘロデの時代に  
アビヤの組の者で

ザカリヤという名の祭司がいた。

彼の妻は、アロンの子孫で

名をエリサベツと叫んだ。

二人とも、**神の前に正しい人**で

主のすべての命令とおきてを

落度なく行っていた。

Ⅱ. ヨセフは、マリヤの妊娠を  
表ざたにしなかった。

母マリアはヨセフと婚約していたが

二人がまだ一緒にならないうちに

聖霊によって身ごもっていることが分かった。

夫のヨセフは、正しい人で

マリアをさらし者にしたくなかったので

ひそかに、離縁しようと思った。

Ⅲ. ヨセフは、マリヤと密かに

離縁しようとした(婚約破棄)

母マリアはヨセフと婚約していたが

二人がまだ一緒にならないうちに

聖霊によって身ごもっていることが分かった。

夫のヨセフは、正しい人で

マリアをさらし者にしたくなかったので

ひそかに、**離縁しよう**と思った。

ある男と**婚約中の処女の娘**がいて  
ほかの男が町で彼女を見かけて  
一緒に寝た場合

あなたがたは、その二人を  
その町の門のところに連れ出し

**石を投げて、殺さなければならぬ。**

その女は、町の中にいながら  
叫ばなかったからであり

その男は、隣人の妻を辱めたからである。

こうして、あなたがたの中から  
その悪い者を除き去りなさい。

人が妻をめとって、夫となったとき

妻に何か恥ずべき事を発見したため

気に入らなくなった場合は

夫は離婚状を書いて

その女の手に渡し

彼女を家から去らせなければならぬ。

申命記 24章 1節

愛は寛容であり、愛は親切です。  
また人をねたみません。

愛は自慢せず、高慢になりません。  
礼儀に反することをせず

自分の利益を求めず、苛立たず

人がした悪を心に留めず

不正を喜ばずに、真理を喜びます。

すべてを耐え（がまんし）、すべてを信じ  
すべてを望み、すべてを忍びます。

第一コリントー3章4〜7節

愛は寛容であり、愛は親切です。  
また人をねたみません。

愛は自慢せず、高慢になりません。  
礼儀に反することをせず

自分の利益を求めず、苛立たず

人がした悪を心に留めず

不正を喜ばずに、真理を喜びます。

すべてを耐え（がまんし）、すべてを信じ  
すべてを望み、すべてを忍びます。

第一コリントー3章4〜7節

愛は寛容であり、愛は親切です。  
また人をねたみません。

愛は自慢せず、高慢になりません。  
礼儀に反することをせず

自分の利益を求めず、苛立たず  
人がした悪を心に留めず

不正を喜ばずに、真理を喜びます。

すべてを耐え(がまんし)、すべてを信じ  
すべてを望み、すべてを忍びます。

第一コリントー3章4〜7節

さて

ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。

彼はぶどう酒を飲んで酔い

自分の天幕の中で裸になった。

カナンの父ハムは、父の裸を見て

外にいた二人の兄弟に告げた。

それで、セムとヤペテは上着を取って

自分たち二人の肩に掛け

うしろ向きに歩いて行って

父の裸をおおった(覆う・被う)

彼らは顔を背け、父の裸は見なかった。

創世記 9章 20 ～ 23節

## IV. ヨセフは、夢で導かれた

夫のヨセフは、正しい人で

マリアをさらし者にしたくなかったので  
ひそかに、離縁しようと思った。

彼が、このことを思い巡らしていたところ  
**見よ、主の使いが夢に現れて言った。**

「ダビデの子ヨセフよ。

恐れずにマリアをあなただの妻として  
迎えなさい。

その胎に宿っている子は聖霊によるのです。

マリアは、男の子を産みます。

その名を、イエスとつけなさい。

この方がご自分の民を

その罪からお救いになるのです。」

み使い（天使）の働き

御使いはみな、奉仕する霊であって

救いを受け継ぐことになる人々に

仕えるために遣わされている

のではありませんか。

へブル一章一四節

祭司ザカリヤの場合

さてザカリヤは、自分の組が当番で神の前で祭司の務めをしていたとき、祭司職の慣習によってくじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。

すると、主の使い（ガブリエル）が彼に現れて、香の祭壇の右に立った。これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。

御使いは、彼に言った。

「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツはあなたに男の子を産みます。その名を、ヨハネとつけなさい……」

マリヤの場合

さて、その六か月目に  
御使いガブリエルが、神から遣わされて  
ガリラヤのナザレという町の  
一人の処女のところに来た。

この処女は、ダビデの家系のヨセフという人  
のいいなずけで、名をマリアと叫んだ。

御使いは入って来ると、マリアに言った。

「おめでとう、恵まれた方。

主があなたとともにおられます…

恐れることはありません、マリア。

あなたは神から恵みを受けたのです。

見なさい。あなたは身ごもって

男の子を産みます。

その名を、イエスとつけなさい…」

羊飼いの場合

さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。すると、**主の使いが彼らのところに来て**主の栄光が、周りを照らしたので彼らは非常に恐れた。

**御使いは、彼らに言った。**

「恐れることはありません。見なさい。

私は、この民全体に与えられる

大きな喜びを告げ知らせます。

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。

この方こそ主キリストです。

あなたがたは、布にくるまって

飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。

それが、あなたがたのためのしるしです。」

## ヨセフの場合

み使い(天使)は、**夢でのみ**

ヨセフに現れ、神のことばを伝えている

夫のヨセフは、正しい人で  
マリアをさらし者にしたくなかったので  
ひそかに、離縁しようと思った。

彼が、このことを思い巡らしていたところ  
見よ、**主の使いが夢に現れて言った。**

「ダビデの子ヨセフよ

恐れずにマリアをあなたの妻として  
迎えなさい。

その胎に宿っている子は聖霊によるのです。  
マリアは男の子を産みます。

その名をイエスとつけなさい。  
この方がご自分の民を

その罪からお救いになるのです。」

彼ら（東方の博士ら）が帰って行くと

見よ、**主の使いが夢でヨセフに現れて言った。**

「立って幼子とその母を連れて

エジプトへ逃げなさい。

そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。  
へロデがこの幼子を探し出して  
殺そうとしています。」

そこでヨセフは立って

夜のうちに幼子とその母を連れて

エジプトに逃れ

へロデが死ぬまでそこにいた。

マタイ 2章 13 ～ 15節

へロデが死ぬと

見よ、主の使いが夢で

エジプトにいるヨセフに現れて言った。

「立って幼子とその母を連れて

イスラエルの地に行きなさい。

幼子のいのちを狙っていた者たちは

死にました。」

そこで、ヨセフは立って

幼子とその母を連れて

イスラエルの地に入った。

マタイ 2章 19 ～ 21 節

アルケラオが父へロデに代わって  
ユダヤを治めていると聞いたので  
そこに行くのを恐れた。

さらに、**夢で警告を受けたので**  
ガリラヤ地方に退いた。

そして、ナザレという町に行って住んだ。

これは、預言者たちを通して  
「彼はナザレ人と呼ばれる」と  
語られたことが成就するためであった。

V. ヨセフは、信仰の人であった

このすべての出来事は  
主が預言者を通して語られたことが  
成就するためであった。

「見よ、処女が身ごもっている。

そして男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

それは、訳すと

「神が、私たちとともにおられる」  
という意味である。

ヨセフは眠りから覚めると

**主の使いが命じたとおりにし**

**自分の妻を迎え入れたが**

子を産むまでは彼女を知ることにはなかつた。

そして、その子の名をイエスとつけた。

彼ら（東方の博士ら）が帰って行くと見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。

「立って幼子とその母を連れて

エジプトへ逃げなさい。

そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。  
へロデがこの幼子を探し出して  
殺そうとしています。」

そこで、ヨセフは立って

夜のうちに幼子とその母を連れて

エジプトに逃れ

へロデが死ぬまでそこにいた。

マタイ 2章 13 ～ 15節

へロデが死ぬと

見よ、主の使いが夢で

エジプトにいるヨセフに現れて言った。

「立って幼子とその母を連れて

イスラエルの地に行きなさい。

幼子のいのちを狙っていた者たちは

死にました。」

そこで、ヨセフは立って

幼子とその母を連れて

イスラエルの地に入った。

マタイ 2章 19 ～ 21節

アルケラオが父へロデに代わって  
ユダヤを治めていると聞いたので  
そこに行くのを恐れた。

さらに、夢で警告を受けたので  
**ガリラヤ地方に退いた。**

そして、ナザレという町に行って住んだ。

これは、預言者たちを通して

「彼はナザレ人と呼ばれる」と

語られたことが成就するためであった。

人の歩みは、主によって確かにされる。

主は、その人の道を喜ばれる。

詩篇 37章 23節

## 本日のポイント

- I. ヨセフは、正しい人であった
- II. ヨセフは、マリヤの妊娠を表ざたにしなかった
- III. ヨセフは、マリヤを密かに離縁しようとした
- IV. ヨセフは、夢で導かれた
- V. ヨセフは、信仰の人であった